

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は底堅い流れが継続か

[12月16日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月9日～12月13日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	149.94	153.09(13)	149.69(9)	152.86	+2.86
ユーロ・ドル	1.0555	1.0594(9)	1.0456(13)	1.0461	-0.0107

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	39,470.44	+379.27	日本10年債利回り	1.047	-0.013
ダウ平均株価	43,914.12	-728.40	米10年債利回り	4.328	+0.175

<来週の主要経済統計等>

- 16日 日本10月機械受注
 - 中国11月鉱工業生産指数、中国11月小売売上高
 - スイス11月生産者輸入価格
 - 独12月製造業PMI速報値、独12月サービス業PMI速報値
 - ユーロ圏12月製造業PMI速報値、ユーロ圏12月サービス業PMI速報値
 - 英12月製造業PMI速報値、英12月サービス業PMI速報値
 - 米12月NY連銀製造業景気指数
 - 米12月製造業PMI速報値、米12月サービス業PMI速報値
- 17日 英11月雇用統計
 - 独12月ifo景況感指数
 - 独12月ZEW景況感指数
 - ユーロ圏10月貿易収支
 - カナダ11月消費者物価指数
 - 米11月小売売上高
 - 米11月鉱工業生産・設備稼働率
- 18日 NZ第3四半期経常収支
 - 日本11月貿易収支
 - 英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、英11月小売物価指数
 - ユーロ圏11月消費者物価指数確報値
 - 米11月住宅着工・許可件数、米第3四半期経常収支
 - 米連邦公開市場委員会 (FOMC、17-18日) 政策金利
 - パウエルFRB議長記者会見
- 19日 NZ第3四半期GDP
 - 日銀金融政策決定会合 (18-19日)・金融政策発表
 - 植田日銀総裁記者会見
 - ユーロ圏10月经常収支
 - 英中銀 (BOE) 政策金利
 - 米第3四半期GDP確報値、米12月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米新規失業保険申請件数
 - 米11月景気先行指数、米11月中古住宅販売件数
 - 米10月対米証券投資
- 20日 NZ11月貿易収支
 - 日本11月消費者物価指数
 - 中国最優貸出金利 (ローンプライムレート 1年 5年)
 - 独11月生産者物価指数
 - 英11月小売売上高
 - 米11月個人所得・支出、米11月個人消費支出 (PCE) 物価指数

カナダ10月小売売上高
米12月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】12月のFOMCでの利下げ観測が高まっている。12月の日銀金融政策決定会合では利上げ観測はやや後退している。こうした中、ドル円は148円台まで下落した後に151円台まで戻りを見せるなど、一進一退の動きとなっている。日米の金融政策への思惑が交錯する中、150円を挟んでもみ合いながら方向感を探る動きになるとした。

【12月の日銀金融政策決定会合での利上げ見送りか】

6日発表の11月の米雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月比22.7万人増となり、事前予想の22.0万人増を上回った。平均時給も事前予想を小幅ながら上回った。一方で、失業率は悪化した。この結果を受けて、12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げに動くとの見方が強まり、ドル円は149.30台まで下落した。

9日に中国共産党の中央政治局会議で、来年はより積極的な財政政策を実施、適度の緩和的な金融政策を実施などと表明したことが好感されて、円売りの動きに傾いた。ドル円は149円台後半から151円台前半まで上昇を見せた。その後も堅調な流れを受けて、ドル円は10日には一時152円台前半まで上昇した。

11日は日銀会合を巡る報道で乱高下した。一部報道で、「一部政策委員は12月会合で利上げ提案あれば反対しない見通し」「追加利上げは時間の問題になりつつあると日銀は考えている」と報じられたことで一気に円高に振れた。ドル円は151円近くまで下落した。一方で、「円安の物価押し上げリスクは相対的に薄れていると日銀は判断」「日銀、今月利上げ見送りでも物価加速リスク大きくないと認識」としたことで152.40台まで急反発した。

11日発表の11月の米消費者物価指数はおおむね市場予想の通りとなった。その後は152円台を中心とする振幅が続いた。12日の11月の米生産者物価指数は市場予想を上回り、152円台後半まで上昇した。また、市場では12月の日銀金融政策決定会合で利上げが見送られるとの観測が高まっており、円売りにつながりやすく、ドル円の下値を支えている。

【12月FOMCでは利下げ観測が高まる】

17～18日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）では0.25%の利下げが見込まれている。6日の米11月雇用統計では非農業部門雇用者数は予想を上回り、失業率が低下する中、FOMCでの利下げ方針に変更はないとの見方が広がった。また、11日の米11月消費者物価指数は市場予想通りの結果となったことで、利下げ確率が一段と高まった。

CME FEDウォッチによると、今回のFOMCでの0.25%の利下げ確率は96%前後に上昇しており、利下げが確実視されている。

今回のFOMCでは利下げが既定路線となっており、声明やパウエルFRB議長の記者会見が注目される。また、今回はFOMCメンバーによる政策金利や物価、経済成長率見通しが発表される回となっている。9月のFOMCでは2025年末の政策金利見通しは3.4%となっており、これがどう変動するかが注目される。

米経済指標は一部に弱さも見られるが、おおむね堅調な結果を示している。こうした中、今後の経済成長率見通しや政策金利見通しが下方修正されるようならドル売りとなりそうだ。ただ、大幅な景気減速は想定しにくく、政策金利見通しも大幅な下方修正される可能性は低いと想定される。この場合、ドル円は底堅い流れが継続することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、150.00～156.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、16日に日本10月機械受注、米12月NY連銀製造業景気指数、米12月製造業PMI速報値、米12月サービス業PMI速報値、17日に米11月小売売上高、米11月鉱工業生産・設備稼働率、18日に日本11月貿易収支、米11月住宅着工・許可件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、17-1

8日)政策金利、パウエルFRB議長記者会見、19日に日銀金融政策決定会合(18-19日)・金融政策発表、植田日銀総裁記者会見、米第3四半期GDP確報値、米12月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米11月景気先行指数、米11月中古住宅販売件数、米10月対米証券投資、20日に日本11月消費者物価指数、米11月個人所得・支出、米11月個人消費支出(PCE)物価指数、米12月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは軟調な推移か】

12日の欧州中央銀行(ECB)理事会では、市場予想の通り0.25%の利下げが決定した。声明では「インフレ抑制のプロセスは順調に進んでいる」「景気回復は想定よりも遅れている」といった指摘があった。ECBスタッフ予測では、今年と来年のインフレ見通しは引き下げられた。経済成長率見通しは2024-2026年のいずれも引き下げられている。理事会後の記者会見でラガルド総裁は、「基調インフレは2%に戻る軌道にある」「成長見通しへのリスクは下振れ方向」などと述べた。今後に関しては「データ次第で会合ごとの決定となる」として、今後の利下げへの明確な示唆はなかった。

ユーロドルは12月6日に1.0630近辺まで上昇した後は1.0500ドル割れまで下落を見せた。12月に入ってから1.04台半ばから1.06台前半のレンジ内で推移している。ドイツやフランスでの政治的混乱、ユーロ圏の景気の先行き減速懸念などを背景にユーロドルは戻しても上昇の動きが続きにくく、上値の重い動きとなっている。ユーロ圏の経済指標もさえないものが多く、ユーロドルは軟調な推移が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0300~1.0650ドル。

19日の英金融政策委員会(MPC)では政策金利は据え置きとなる見通し。次の利下げは来年2月との見方が広がっている。ポンドドルは安値圏から戻りが続いてきて、5日に21日移動平均線を上抜いた。上昇が続いてきたことで、その後は頭打ちとなっている。ポンドドルは上昇が一服しており、このところのレンジを中心とするもみ合いとなりそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2600~1.2900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に中国11月鉱工業生産指数、中国11月小売売上高、独12月製造業PMI速報値、独12月サービス業PMI速報値、ユーロ圏12月製造業PMI速報値、ユーロ圏12月サービス業PMI速報値、英12月製造業PMI速報値、英12月サービス業PMI速報値、17日に英11月雇用統計、独12月IFO景況感指数、独12月ZEW景況感指数、ユーロ圏10月貿易収支、カナダ11月消費者物価指数、18日にNZ第3四半期経常収支、英11月消費者物価指数、英11月生産者物価指数、ユーロ圏11月消費者物価指数確報値、19日にNZ第3四半期GDP、ユーロ圏10月経常収支、英中銀(BOE)政策金利、20日にNZ11月貿易収支、中国最優遇貸出金利(ローンプライムレート1年5年)、独11月生産者物価指数、英11月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。